

本郷だより

第218号

平成30年2月28日発行

文京区立本郷小学校

http://www.bunkyo-ky.ed.jp/hongou-ps/

「助け合う やさしい子」を振り返って

校長 細田 真司

年度の締めくくり3月を迎えました。今年度は、3つの学校教育目標の中で「助け合う やさしい子」を重点として教育活動を展開してまいりました。1年間をとおして、子供たちの様子をよく見ていますと、行事など目標に向かって取り組む際に、クラスや学年の仲間と励まし合い、支え合う姿がありました。心配して落ち込んでいる友達に優しく励ましている子、勇気をもって挑戦しようとしている友達を応援している子が大勢います。私が見取れなかった子も、担任からの報告や通知表の所見を見て、「助け合う やさしい子」が増えてきていることを感じています。

また、今年から取り組んだ、一人一人が考えるいじめ防止宣言では、「なにげない言葉と動きで傷つける」「見かけたら声をかけて対策だ」など、それぞれの思いが込められており、学習・生活の中で「それ、いじめだよ。」と注意し、いじめを許さない風土や意識が高まりました。ただ、教職員は、いじめはいつでも、どこでも起こりうるという意識を常にもち、保護者の方との情報交換も大切にしながら、いじめへの対応強化を今後も継続したいと考えています。

学校評価の児童による自己評価では、「友達に対する言葉遣いについて、気を付けている。」の項目について、そう思うと回答した児童が47%、ややそう思うが39%、あまり思わないが11%、思わないが3%でした。「だれにでも優しい気持ちで接している。」の項目では、そう思うと回答

した児童が49%、ややそう思うが40%、あまり思わないが8%、思わないが4%でした。「助け合う やさしい子」を重点に取り組んでいるからには、この2つの項目は、「そう思う」と回答する児童を増やせるように、学校教育を進めなければなりません。

2月24日、6年生を送る会が実施されました。1年生から5年生までは、6年生へ感謝の気持ちを伝え、6年生もその気持ちに応える思いを言葉や合奏・合唱にして届けました。学校の姿は、6年生の姿に表れると言います。今年度、助け合うやさしい姿を随所に見せた6年生が残した良き校風を、在校生がしっかりと引き継げる本郷小として発展させてまいります。



3月の行事予定

生活目標 1年間のまとめをしよう

曜日	時程	朝会	学校行事	曜日	時程	朝会	学校行事
1 木		外	保護者会(4~6年・5時間授業) 10歳を祝う会(4年)	15 木		外	
2 金			感謝の会6年(1~5年・午前授業)	16 金		安	
3 土				17 土			
4 日			本郷ブルー1000	18 日			
5 月		全	委員会活動 保幼新入生体験①	19 月		全	
6 火		外	保幼新入生体験②	20 火	特		給食終了 卒業式予行5・6年 (1~4年午前授業)
7 水		縦	午前授業	21 水			春分の日
8 木		外	送別球技大会(5・6年)	22 木	特	式	修了式・大掃除
9 金		集	避難訓練	23 金	特		卒業式
10 土				24 土			
11 日				25 日			
12 月		全	クラブ活動	3月26日~4月5日春季休業日 4月6日(金) 新年度 始業式・入学式			
13 火		外	社会科見学(6年) 保幼小交流給食会				
14 水	水	読					

水…水曜時程 特…特別時程 式…儀式的行事 全…全校朝会 集…児童集会 音…音楽朝会 安…安全指導日 縦…縦割り遊び 外…外遊び 読…読み聞かせ

今年度は児童が安心、安全な学校生活を送れるために2つのことに力を入れました。

1つ目は、いじめ防止の取組です。1学期には「いじめ防止行動宣言」を全児童が行い、校内に掲示し、いじめについての意識を高めました。2学期にはそれを振り返り、今度は一人一人が「いじめ防止標語」を作成しました。児童の会話の中に「それはいじめだよ。」と注意し合あうような場面を見るようになり、意識は確実に高まっていると感じました。「いじめ」は集団の中で起きますが、「いじめ」を集団の力で防止できる、そのような環境作りも大切だと考えています。

2つ目は毎月の避難訓練です。災害の想定や場面、避難の仕方、スムーズな児童掌握、集団下校の仕方など、児童数増加に伴い一つ一つ見直しながら行いました。

また、地震や火災だけでなく、「不審者の侵入」や「ミサイル飛来」など多様化する災害の想定も、より実際の場面に即した形で実施しました。10月には3次避難場所である、東京大学まで全校で避難する訓練も行いました。このような訓練の積み重ねにより予告なしの訓練でも混乱なく避難する様子が見られます。

今後も、万が一の時に訓練が生かされるよう児童も教職員も真剣に取り組んでいきたいと思ひます。

今年度の研究のまとめ

研究推進部

本年度から「深い学びを実現する授業の創造 ～新学習指導要領を見据えて～」を研究主題とし、国語、算数、社会、総合的学習の時間、生活科、道徳、外国語科といった複数の教科等について研究を行ってきました。

平成29年3月31日に新しい学習指導要領が告示され、小学校においては、平成32年度より全面実施します。そこで新学習指導要領を見据え、本年度の研究では、全教員が各教科等における「深い学びの姿とは、一体どのような姿なのだろう。」という問いをもつところからスタートしました。各教科等の深い学びの姿を想定し、どうすれば深い学びの姿に導くことができるのかを検証し続けてきました。授業を行う際、学習過程の工夫、教材の工夫、対話の工夫などの手立てを考え、講師の指導・助言を受けることで深い学びの姿が次第に見えてきました。本年度は、以下のような成果と課題が挙げられます。

【成果】

- ①各教科等で体験活動を取り入れたり、子供にとって身近で関係性のある教材を扱ったりするなど、興味・関心ある教材を取り上げることで子供たちが主体的に活動することができ、考えを深めることができました。
- ②比較・分類・関連・総合など学習活動を工夫していくことで学びを深めることにつながりました。

【課題】

- ①対話的活動が伝え合うだけになってしまいがちであった。そのことから対話的活動を意図的に話し合う場を設定したり、関わり方に変化を得られるようにしたりすることが必要であった。
- ②「深い学び」が単元のどこの時間に見えるのかが分かりづらかった。そのことから、日常の授業から「深い学び」を抽出していく。

1年間研究に取り組んできた成果は、着実に日々の成果に表れてきています。今後も教科等横断的な授業を通じた子供の学びの向上と、教員の授業力向上と改善に努めていきます。

卒業そして中学校へ

6年

- 自分の考えや意見を大切にし、他者にも気を配れるようにしていきたい。自分で考えて進み、目的を達成すれば、あふれるほどの「喜び」が生まれると思う。
- 自分に厳しい、自分の欲に負けない、しっかりとした信念をもち、相手には優しくいたわり、言葉で優しく接していく。
- 自分を助けてくれる人はいる。だから、自分も周りの人を助けなければいけない。この助け合いができるような中学生になる。
- 中学生になったら、上下関係を大切にし、勉強・部活どちらももしっかり取り組み、同級生や先輩、後輩にも信頼される人になることを目指します。
- 自分のめあてや目標をしっかりと持ちます。中学校では自主的に行動しなければいけないことが多いので自分のすべきことを常に考えておかななくてはならないからです。
- 中学生になったら、相手が話しているときは、相槌を打ちながら聞き、自分が言った言葉が相手にどう感じるかを考えながら話すことを大切にします。